

きょう開幕YOSAKOIソーラン祭り

それぞれの思い胸に 管内4チーム大舞台

6日に札幌で開幕する第27回YOSAKOIソーラン祭り(10日まで)に出場する後志管内ゆかりの4チームが練習に励んでいる。踊り手たちがテーマや衣装を新たに大舞台に挑む。小樽商大のサークル「翔楽舞」は昨年、北海道知事特別賞を受けた。出場11回目の今年の演舞名は「出帆唄」。106人が日の出の出帆を表す紺と朱のはっぴを羽織り、船出を前に己を奮い立たせる小樽の漁師を

表現する。伊東和真代表(21)は「ファイナル進出をかなえます」と張り切る。小樽在住の沢田弥生代表(37)が指導する7〜13歳計11人のジュニアチーム「美花月」は出場3回目。テーマは「勇鳳舞進」で、目標に向かいくじけずに前進する意味の四字熟語と伝説の鳥「鳳凰」をかけた。沢田代表は「困難を乗り越えた後の成長を、踊りを通して表現する」と意気込む。

出場20回目の「仁木・舞仁咲乱」は仁木町の4〜78歳の約25人が、踊り手40人未満の枠で入賞を狙う。5月から週3回、夜に2時間半の練習を重ねてきた。新おたる農協職員の高橋正人代表(49)は「4歳の子も旗を振ってくれます。一生懸命踊りたい」と話した。

積丹町と姉妹都市・高知県香美市の合同チーム「ヤイレンソーラン積丹町&香美市」は27回連続出場。4〜77歳の65人が順位を競わない審査対象外チームとして踊る。積丹町職員の高橋あかり代表(23)は「楽しく交流を深めながら踊りたい」と話す。(有田麻子)



船出前の漁師を舞で表現する小樽商科大「翔楽舞」